

## インターバンクの声（2014 年 9 月 12 日）

昨晚の海外市場は、取り敢えず二つの材料でドル円相場が動いたということでしょうか。最初は、米新規失業保険申請者件数が事前予想を若干上回ってしまったことへの反応。やはり5日の雇用統計の弱い内容がトラウマになっているのか、普段であればそれほど気にしない程度のブレと思われたが、きれいに106.66までドルが売られてしまいました。もっとも市場もやり過ぎたと感じたのか、或いは丁度アジア時間の安値に近付いたことで良い押し目買いのチャンスと思ったのか、ゆっくり元のレベルに戻ってくれました。

つづいては、アジア時間から前宣伝が効いていた、日本時間午後11時からの黒田日銀総裁出演のテレビ番組です。黒田総裁、なかなかボラティリティーの拡大に貢献してくれました。円売りと円買い双方のネタを提供して下さり、市場が期待していたように明確な円安容認発言とは行きませんでした。が、「最近の円安は日本経済にマイナスになることはない」で十分でした。ただし、すかさず上値も抑えるべく現段階での追加緩和に後ろ向きな発言もしたことで再度ドル売りとなりました。週末前のポジション調整がどうなるかにもよりますが、やはりまだ上値のブレイクに挑戦した方々が多いのではないのでしょうか。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。